

## ■三つの療法(ホメオパシー、アンチパシー、アロパシー)

「三」は非常に基本的な概念です。通常どのようなものにも三つの関係性があります。上と下とその中間、右と左とその中間、好きと嫌いとはどっちでも良い、熱いと冷たいとその中間、私とあなたと他人、そして何かに「似たもの」と「反対のもの」と「どちらでもないもの」。

### 病と治療薬の三つの関係性

病と似た現象を起こすもの＝ホメオパシー (Homeopathy)

反対の現象を起こすもの＝アンチパシー (Antipathy)

どちらでもないもの＝アロパシー (Allopathy)

### 病と関係性のある薬を使うべき

治療薬というからには病と深い関係性があるべきです。もし病に無関係な薬を使用するとしたらそれはあまり賢明ではありません。

三つの療法の中で病と関係性が存在するのは、「病と似た現象を起こすもの(ホメオパシー)」か「病と反対の現象を起こすもの(アンチパシー)」です。

### 病(症状の総体)と反対の関係性にある薬は存在しない

最初に学んだように、病とは症状の総体です。症状の総体に対して反対の現象を起こす薬があればいいのですが、残念ながら存在しません。反対の作用があるのは、常に「部分」に対してだけなのです。

### 病(症状の総体)と類似した関係性にある薬は存在する

症状の総体に似た現象を起こすものは存在します。ホメオパシーが有効である理由のひとつは、「病(症状の総体)とレメディに深い関係性が存在すること」なのです。

### 副作用

どんな薬であっても人間の全体に作用しますから、現代医療の薬にも全体像(症状の総体)が存在します。しかしアンチパシー的にそれを用いる場合、アンチパシー的关系にあるのは一つの症状だけで、薬のもつその他の症状群の多くは病気の症状群と無関係(アロパシー)になります。これが副作用と呼ばれるものの正体です。

### ホメオパシー的問題解決とは

現代の医療はアンチパシーが主な考えです。特定の症状に対して反対の作用がある薬で押さえ込もうとするのです。悪役を見つけてそれを叩く、そういったアンチパシー的問題解決はよく見られますが、ホメオパシーはそのような問題解決方法を取りません。ホメオパシー的な問題解決とはどのようなものでしょうか。